

TOP BAKUHI

とば きいち
鳥取県議会議員 鳥羽 喜一

第9回号
活動報告書

8月に県政報告会を開催いたしました!

令和6年8月24日(土)、昨年春に行われました県議選を終えて初となる、県政報告会を来年春開館に向けて準備中の鳥取県立美術館にて開催し、これまでの議会活動についてのご報告の場をいただきました。報告会后には、美術館スタッフの方に館内ツアーを開いていただき、ご来場いただいた子ども達にも楽しんでいただくことが出来ました。

当日は、来賓としてお呼びしておりました石破茂衆議院議員の

総裁選出馬の表明日と重なり、石破衆議院議員の取材のために20社を超えるメディアの方にもお越しをいただきました。ご来場いただきました皆様、大変にお忙しい中、お越しをいただきまして本当にありがとうございました。また、開館前の美術館を県政報告会に使用させていただき、美術館スタッフの皆様にもこの場をお借りしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



来賓の石破衆議院議員の特別講演



子ども達を含む、200名を超える多くの方がご来場



最後は、石破代議士の総裁選必勝コールで締め

その他の活動

中部療育園、倉吉養護学校訪問

中部療育園の受診者が数年で約3倍になっている現状を踏まえ、誰もが安心して子ども達を育て、育つことが出来る環境を整えるために、倉吉養護学校・中部療育園に視察に参りました。9月議会、知事に提案するための貴重な視察の機会をいただきました。



信号を6秒長く

倉吉市議会の鳥羽市議、倉吉市職員・鳥取県職員・鳥取県警と共に、倉吉社会福祉協議会前の交差点を実地調査いたしました。足そして目が不自由な方にとって、これまでの信号の長さでは歩きづらかったため、県警にお願いして6秒長くしていただき、「これで安心して渡れる」とのお言葉をいただくことが出来ました。



9月議会一般質問

発達に不安を抱える子どもが安心して医療を受けられる体制について

Q. 質問

本県では、東・中・西それぞれに発達に不安がある子供の診療を行うために、**県立の療育園**を設立しているが、倉吉市に位置している中部療育園は、電話が中々繋がらず、初診も2カ月先しか受け付けることが出来ていない。厚生病院に常駐の医師がおらず、中部に専門のクリニックが存在しないため、受診者がこの数年で約3倍に跳ね上がっていることが原因と考えられる。厚生病院での受診体制を強化するなどしながら、鳥取大学医学部と協力し、比較的人員に余裕のあるとされる西部圏域から他エリアへの医師の派遣頻度を上げるなどして、工夫して診療体制を整えることは出来ないか。

公立高校の学校統合について

Q. 質問

中学生の学びの影響を鑑み、一定の規模を保ちながら適切な倍率を確保しているためにも、この急激な少子化社会においては、中山間地域に位置する高校や農業等の専門校を除いた普通科の公立高校の統合は進めていく必要があると考える。

私は倉吉市立成徳小学校と瀬手小学校の統合を、卒業生として、地域の住民として、市議会議員として、間近で拝見し、学校を愛する地域の思いの深さというものを痛感した。

学校統合は地域から反対の声が上がる可能性があるが、教育委員会は、この学校統合に対して、どのような覚悟で臨まれるのか。

A. 教育長の答弁

向こう10年で1,500人近い子供たちの数が減ることを思えば、子供たちの学びの環境を考えると適正な規模の維持のためには、どこかで踏み出さねばならない、そういう時期がいよいよ来た、来ているという状況。その意味では、そうした周辺地域の方、関係者の方々への説明等も含めて、私をはじめ、しっかりとした覚悟を持って、臨まねばならないと考えている。

医師の診療間の偏在について

Q. 質問

発達障がい等を診察することのできる小児神経科の医師だけでなく、小児科や産婦人科など、少子化によって患者数が急激に減少している分野のクリニックの開業数が減少しており、実際に県中部を中心にその煽りを受けている。県外においても同様の問題が起こっていると承知をしている。少子化による患者数の減少を鑑みた医師の開業への敬遠といったものを考慮した、医師を効率的に配置する医療政策の必要性を、地方から国に対して、積極的に要望していく必要があるのでは。

A. 知事の答弁

厚生労働省もこの診療間の偏在について課題意識を持っている所であるが、徳島県などの8つの県で連合軍をつくってこの課題に対する是正を要望活動を行っていく。

A. 知事の答弁

副知事を筆頭とした課題整理を行っている所である。見えてきているのは、保育所への保育士の加配に必要な医師の診断書取得のための受診やその診断書の作成の時間が受診の逼迫に繋がっている。また、いしか工夫を今後もさせていただいて、円滑な治療等が受けられるように、体制を強化していく。

A. 病院管理者の答弁

厚生病院は常勤での脳神経小児科専門医が不在となっている。専門医の人材の確保が困難であり不足しているが、中部の現状を、鳥取大学にしっかりと伝えて、枠をさらに増やすとか、脳神経小児科専門医の常勤を再開するなど要望していく。

労働市場の流動化について(アルムナイ制度*の導入)

Q. 質問

日本は新卒一括採用、終身雇用制、総合職採用、企業別労働組合といった日本独特のシステムが複雑に絡み合っており、それが今や一つの日本の文化となって、今日の日本の労働市場が出来上がっているため、労働市場の流動化というのは一足飛びに進んでいかないと感じている。転職がもっと当たり前になる社会を築いていくために、県庁にアルムナイ制度を導入し、県下の民間の事業所に対しても、このアルムナイ制度を周知していくことで、人材の流動化の素地をつくっていくことは出来ないか。

A. 知事の答弁

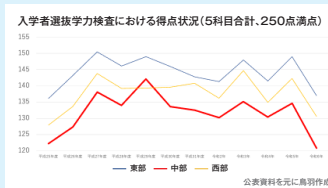
県の職員任用規則では、再採用は認められているが、運用はしていない。アルムナイ制度の導入の価値は十分あると思うので、検討していく。

*一度退職したとしても、再度社員として雇用する制度。いわゆる出戻り採用。

公立高校の定員割れの中学生の学びの影響について

Q. 質問

鳥取県中部において、進学校においても定員割れが数年続いたことにより、中学生の中で特に学びが深化される大切な受験期において、「なんで受験勉強しないといけない?」という会話が飛び交い、勉強に励まない生徒が出ていると関係者から聞いている。また、実際に、高校入試の結果においても地域間で得点状況に差がみられる。改善の余地があるのでは。



A. 知事の答弁

高校の倍率と学ぶ意欲の影響は、大きいと考える。ただ、それでは定員を狭めればいいのかといった話にも(学校の活力維持を考えると)なりづらい。今後の令和8年以降の高校の在り方でしっかり検討をしていかなければならない。

鳥羽 喜一(とば きいち)連絡先

TEL 090-4149-6927

F682-0886 倉吉市大正町 1078-3

kiichi.toba@gmail.com



Facebook Instagram X

ホームページでも情報を発信中!



鳥取県議会 録画



Facebook



Instagram



X



きいちブログ